

西台に残っていたシロヨメナの移植について

2004 年 11 月 15 日

発見と同定

2003 年 9 月、西台 1 丁目 3 番地、と 7 番地の斜面に残されていた雑木林は永久に消滅した。環状 8 号線道路工事のためである。高木層はクヌギとイヌシデ、ケヤキが多く、イヌザクラ、コナラ、ムクノギが混じり、中、低木層にはシラカシ、シロダモ、カマツカ、エゴノキ、ハンノキなどが見られた林であった。林床はアズマネザサが繁茂し、単調であったがよく見ると面白い植物が所々に生えていた。

付近に残された樹林地の内で、最も昆虫相が豊富そうだと目をつけ調べ出したのが 1999 年のこと。その頃から気になっていた植物があった。秋に白い花が咲く、割合背が高いキク科の植物であった。3 番地と 7 番地のちょうど境目の樹林地内に毎年 10 数本は見られ、これ以外はどこにも無かった。外見はありふれているが、図鑑をみても良く分からない。こんなチンケな花で園芸植物はないだろう、多分野生種だろうと見当はつけたが、それ以上は調べなかった。

2003 年 8 月、いよいよ伐採の時期はせまってきた。分からないまま、消えてしまうのも心残りなので、一株だけ地下茎を掘り出し、自宅の植木鉢に植えておいた。花が咲いてから、じっくりと調べてみる、絵合わせではイナカギクとなったが、そのままになってしまった。本年秋もう一度調べなおし、ノコンギクの亜種にあたる、シロヨメナ *Aster ageratoides* TURCZ. subsp. *leiophyllus* (FRANCH. & SAV.) KITAM. と同定した。なお元赤塚植物園囑託の篠原智男氏にも同定をお願いし、シロヨメナであろう、とのお答えを頂いている。(学名は国立科学博物館専報第 34 号 皇居の生物相 I. 植物相による)

板橋区周辺のシロヨメナの現状と生息環境

植物調査の資料をろくに持っていないので、ほとんど不明である。手持ちの文献では北区、江東区、板橋区では記録なし、記録があるのは港区自然教育園と皇居だが、両者とも自生か植栽起源かは不明である。板橋区内で他に分布地があるかもしれないが、少ないことは間違いないであろう。都下の記録は多いが、山地、丘陵地、台地の順に少なくなっていくようだ。埼玉県では南部平野部でも広く見られるようで、新座市(ヤマシロギクの名で記録)、和光市の記録をみている。

先日、久しぶりに奥武蔵の笠山をたずねた。秋の花もほとんど終わっていたが、沢筋の杉林にはシロヨメナがたくさん咲いていた。ノコンギク、カントウヨメナは開けた河原や畑の周囲など明るい環境に多く、シロヨメナとは混生しないようだ。シロヨメナとノコンギクは同一種の亜種関係にあるとされる。昆虫などの動物をやっている者には植物分類の亜種、変種の扱いには戸惑ってしま

う。同一地域の異なった不連続な生息環境に住む近縁種、いくら外見が似ていても昆虫ならば間違いなく別種に分類されるであろう。



移植の是非

昔から生き長らえてきた動植物が、開発により消えてしまうのはさびしい、ほかの場所で生き延びて欲しい、こんな単純な気持ちから書いている文である。自生地が無くなってしまうのなら、記録と標本保存だけでいいのではないか、あるいは植物園など人為的管理の下で保存すべきではないか、どちらも当然の論であろう。ただ私はなるべく元の生息地に近い、似たような環境でまた花を咲かせて欲しいと願っている。

自然地への移植の是非、もし移植に賛成ならば、候補地、移植後の管理など、あるいは同定への疑義等、みなさんのご意見を広くうかがいたい。

連絡先は釣巻岳人 〒173-0015 板橋区栄町 9-8 TEL 3961-2875 FAX3964-4314 E-mail: turimaki@muj.biglobe.ne.jp または いたばし水と緑の会事務局 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 E-mail: mizumidori@nifty.com

(付記)

自然地への動植物の移入、移植はなるべく避けるべきだが、やむを得ず行う場合は最低限、次のことを実行してもらいたい。これは今後の動植物分布調査、自然環境調査に無用の混乱を引き起こさないためにも必要なことである。

移入種は正確な同定（同定者名を明記）を行い、和名とともに必ず学名を併記し、元の分布地名、個体数、移植先地名、移植年月日、実行者団体名を文献等に公表すること。ただし盗掘や密猟の恐れがある場合は、公表方法に工夫が必要であろう。

（釣巻岳人）